

# 愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 19 年 27 週(7 月 1 週 7/2~7/8)

平成 19 年 6 月分月報

(作成) 愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先:052-910-5619 (企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

麻しん全数把握事業における患者報告数は  
22 週をピークに減少

### 注意する感染症

ヘルパンギーナ、手足口病は増加

### 定点医療機関コメント

アデノウイルス感染症、プール熱増加

### 全数把握感染症発生状況

結核の累計は 239 件(14 週~27 週)

腸管出血性大腸菌感染症は 2 件

### 6 月分月報

後天性免疫不全症候群 15 件(AIDS 3 件、  
無症候性 12 件)

### 定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

ヘルパンギーナ 729 人(定点あたり 4.0 人)

感染性胃腸炎 603 人(定点あたり 3.3 人)

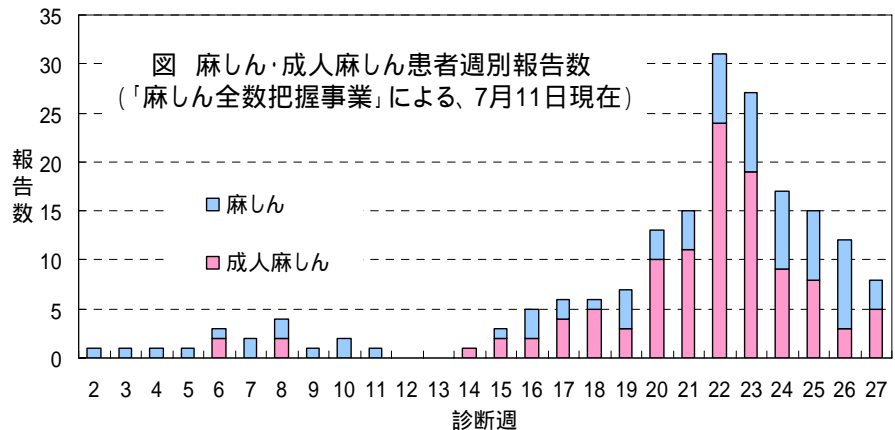
## トピックス

### 麻しんの発生状況

愛知県麻しん全数把握事業(参考ページ1)における患者報告数は184人(7月11日現在)、うち成人麻しんは110人です。27週における患者報告数は計8人と前週(12人)より減少しました。

感染症発生動向調査によると、2007年26週(全国の速報値)の小児科定点(全国約3,000か所)からの麻しんの報告数は106(定点当たり報告数0.03)と前週比0.8倍(132/106)と減少しました。愛知県の報告数は5でした。

基幹定点(全国約450か所)からの成人麻しん(15歳以上)の報告数は35(定点当たり報告数0.08)、前週比0.8倍(42/35)でした。愛知県の報告数は0でした(参考ページ2)。



### 【参考ページ】

1) 「麻しんの全数把握事業が始まりました」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>

2) 「IDWR(感染症発生動向調査 週報)」(国立感染症研究所・感染症情報センター)

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/index.html>

3) 「麻しん(はしか)に注意しましょう!」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/measles2.html>

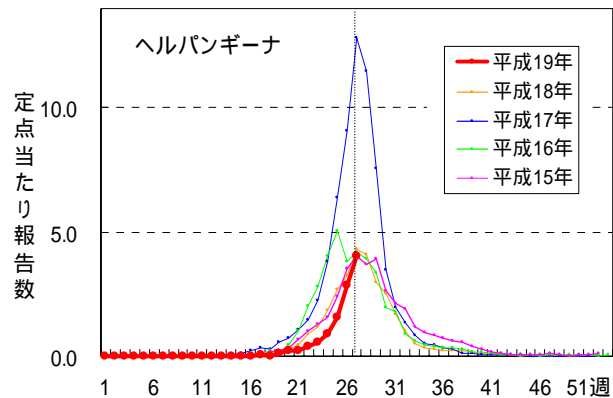
## 注意する感染症

### 1) ヘルパンギーナ

27週の定点あたり患者報告数は4.0人、前週比1.4倍(516人 729人)です。

参考ページ「ヘルパンギーナ」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/herpangina.html>

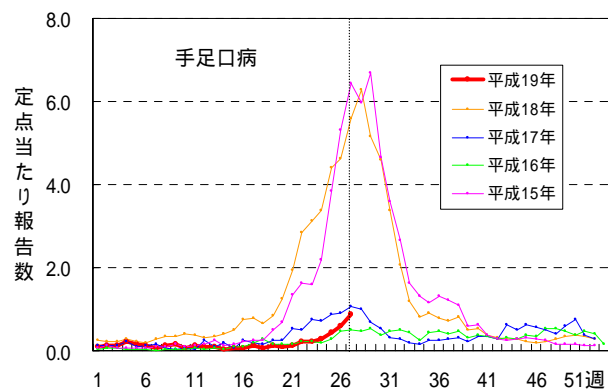


### 2) 手足口病

27週の定点あたり患者報告数は0.9人、前週比1.5倍(110人 160人)です。

参考ページ「手足口病」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hfmd.html>

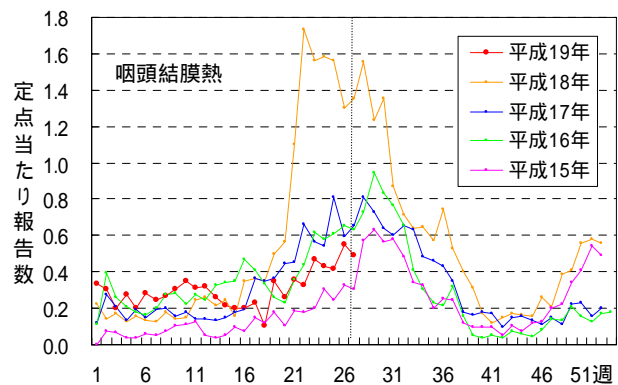


### 3) 咽頭結膜熱

27週の定点あたり患者報告数は0.5人、前週比0.9倍(100人 90人)です。

参考ページ「咽頭結膜熱」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/intou.html>

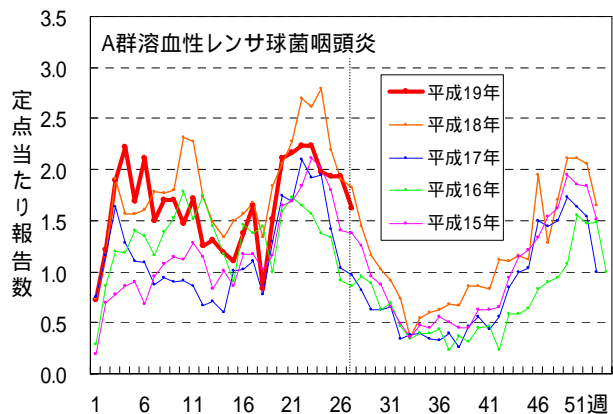


### 4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

27週の定点あたり患者報告数は1.6人、前週比0.8倍(351人 295人)です。

参考ページ「溶血性レンサ球菌咽頭炎」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/yourenkin.html>



## 定点医療機関コメント（名古屋市除く）

### 尾張西部地区

ウイルス感染と思われる発熱（高熱）のみの患児が多い。

水痘 2名

【一宮市 後藤小児科医院】

マイコプラズマ感染症 4名

エンテロウイルスによると思われる胃腸症状の患者さんが増加しています。

【一宮市 城後小児科】

ヘルパンギーナがみられるようになりまして。溶連菌感染症の流行も続いています。

手足口病、アデノウイルス感染症各2名  
【江南市 みやぐちこどもクリニック】

溶連菌感染症、手足口病が多発しています。ヘルパンギーナも出始めました。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

ロタ様の水様下痢が見られます。

カンピロバクターが検出されることがあります。

プール熱が増加してきました。

ヘルパンギーナも多いです。

【犬山市 武内医院】

### 尾張東部地区

病原大腸菌（O15）3歳女

カンピロバクター腸炎 8歳男

溶連菌感染症、アデノウイルス感染症が多い。

マイコプラズマ感染症も多い。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

溶連菌感染症が目立ちます。

ヘルパンギーナも流行し始めたようです。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

O74 7歳男

O1 4歳女

O74 3歳男

【尾張旭市 旭労災病院】

水痘が続いています。

【春日井市 春日井市民病院】

溶連菌感染症多数。

水痘、手足口病、リンゴ病少々。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

ヘルパンギーナが増加、感染性胃腸炎が減少傾向です。

【小牧市 志水こどもクリニック】

溶連菌が多いです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

マイコプラズマ肺炎 4名

ヘルパンギーナ増えてきた

【美浜町 厚生連知多厚生病院】

9歳男 病原性大腸菌O1(+)/ペロトキシン(-)

ヘルパンギーナが急増しました。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

ヘルパンギーナが少し増えてきました。

水痘が引き続き多いです

カンピロバクター腸炎 2歳女

【東海市 もしもしこどもクリニック】

<6月分月報 STD 定点コメント>

トリコモナス膣炎 62歳女 1人です。

【尾張旭市 浅野産婦人科】

### 西三河地区

7歳女 StrepA (+)

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

サルモネラO9群 12歳男

病原大腸菌O1(+)/VT(-) 10歳女

病原大腸菌O74(+)/VT(-) 3歳男

病原大腸菌O1(+)/VT(-) 2歳男

病原大腸菌O1(+)/VT(-) 4歳男

麻疹は予防接種をしている。

【岡崎市 花田こどもクリニック】

3歳男 アデノウイルス感染症

5歳男 アデノウイルス感染症

溶連菌感染症、ヘルパンギーナ流行しています。

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

アデノ 6歳女、9歳女、10か月女

5歳女 サルモネラO4 病原性大腸菌O74(+)/VT(-)

2歳男、1歳女 カンピロバクター

8歳女 病原性大腸菌O169(+)/VT(-)

9歳女 病原性大腸菌O1(+)/VT(-)

3歳女 病原性大腸菌O8 VT(-) カンピロバクター

【岡崎市 にいのみ小児科】

6歳男 病原大腸菌O1

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

マイコ感染症 3例

アデノ感染症 3例

【刈谷市 田和小児科医院】

ヘルパンギーナ、手足口病が増えています。

【碧南市 永井小児クリニック】

ムンプス流行中

【知立市 宮谷クリニック】

感染性胃腸炎が多いです。

【三好町 三好町民病院】

3歳男アデノウイルス感染症

3歳男アデノウイルス感染症

4歳女アデノウイルス感染症

3歳男アデノウイルス感染症

5歳男アデノウイルス感染症

2歳女アデノウイルス感染症

2歳男アデノウイルス感染症

【幸田町 とみた小児科】

ヘルパンギーナが急増

【西尾市 やすい小児科】

ヘルパンギーナが増えました。

【西尾市 山岸クリニック】

## 東三河地区

14歳女 長びく咳。咳のため肋骨骨折おこした児、百日咳でした。

【豊川市 豊川市民病院】

*E. coli* (O1) 男7歳  
*E. coli* (O167) 女1歳  
 カンピロバクター男6歳  
*E. coli* (O25) 男4歳  
*E. coli* (O18) 女1歳  
*E. coli* (O18) 男0歳

【豊川市 ささき小児科】

13歳女水痘（H10年ワクチン接種、H12年、弟の水痘で感染せず）

【蒲郡市 鈴木小児科医院】

今週も高熱を伴う夏かぜが目立つ。  
 【田原市 かわせ小児科】

<6月分月報 STD 定点コメント>

5/29 検査中であった48歳男クラミジア(+)

6/29 31歳男検査中

【豊川市 豊川市民病院】

## 一～三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun070615.pdf>)

### 結核 (二類感染症)

報告保健所	27週報告数		累計(2007年14週～27週)	
		(喀痰塗抹検査陽性者数・再掲)		(喀痰塗抹検査陽性者数・再掲)
豊田市	3	2	23	6
豊橋市			9	2
岡崎市	1	1	19	12
一宮			23	7
瀬戸			27	12
半田	1		12	4
春日井			22	4
豊川			12	8
津島			23	10
西尾			11	9
江南			16	8
新城			1	
知多	2		20	8
師勝			9	3
衣浦東部			12	3
合計	7	3	239	96

### 腸管出血性大腸菌感染症 (三類感染症)

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	江南	3	女	6/30	6/30	7/5	O157、VT1・VT2(+)
2	江南	14	男	6/30	7/2	7/6	O157、VT1・VT2(+)

## 四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

A型肝炎 1例

後天性免疫不全症候群 1例(AIDS、推定感染地域;国内、推定感染経路:性的接触)

**6 月の一～五類感染症（全数把握対象）発生状況**

「診断日」に基づく集計です。

平成 19 年度に発生のある疾病名 内は全数把握対象疾病数	平成 19 年 6 月			平成 19 年度 累 計 <愛知県全体>	内 訳 (6 月)	
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体			
一類 感染症 7				発生報告無し		
二類 感染症 4	結 核	57	68	125	431	
三類 感染症 5	細 菌 性 赤 痢	5		5	9	
	腸 管 出 血 性 大 腸 菌 感 染	10(2)	2(1)	12(3)	24(5)	O157 12 件
	腸 チ フ ス	1		1	1	
四類 感染症 41	E 型 肝 炎	1		1	2	
	A 型 肝 炎				1	
	デ ン グ 熱		1	1	2	
	レ ジ オ ネ ラ 症	2	2	4	10	
五類 感染症 14	ア メ ー バ 赤 痢		5	5	9	
	ウ イ ル ス 性 肝 炎 及 び A 型 肝 炎 を 除 く。				3	
	ク ロ イ ツ フ ェ ル ト ・ ヤ コ ブ 病		2	2	3	孤発性 1 件 遺伝性 1 件
	劇 症 型 溶 血 性 症 候 群				1	
	後 天 性 免 疫 不 全 症 候 群	1	14	15	45	A I D S 3 件 無症候性 12 件
	バ ン コ マ イ シ ン 耐 性 腸 球 菌 感 染 症				1	
	梅 毒	2	3	5	19	無症状 1 件 早期顕症 4 件

( ) 内は無症状病原体保有者再掲

【コメント (名古屋市分を除く)】

- 細菌性赤痢；推定感染地域は南アフリカ 2 件、中華人民共和国、モルディブ、国内各 1 件
- 腸チフス；推定感染地域はインド
- E 型肝炎；イノシシの肝臓の燻製を摂食
- レジオネラ症；2 件のうち 1 件は温泉の利用による

## 五類感染症（月報定点把握対象）発生状況

No	疾 病 名	平成 19 年 6 月			平成 19 年 5 月		
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体
1	性器クラミジア感染症	93	64	157	96	70	166
2	性器ヘルペスウイルス感染症	22	27	49	31	41	72
3	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	29	18	47	22	15	37
4	淋 菌 感 染 症	44	32	76	39	41	80
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	79	14	93	76	4	80
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	9	12	9	0	9
7	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0

上記の報告数は感染症月報指定届出機関( 性感染症 : 52、基幹 : 17 医療機関 ) で把握したものです。

### 感染症の類型及び定義

類 型	定 義
一類感染症 ( 7 疾病 )	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 ( 4 疾病 )	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 ( 5 疾病 )	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 ( 41 疾病 )	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症（人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。）
五類感染症 ( 41 疾病 )	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
指定感染症 ( 1 疾病 )	既知の感染症（一～三類感染症を除く）のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与える恐れがあるもの。一年間に限定した指定。インフルエンザ（H5N1）が平成 18 年 6 月 2 日に指定され、さらにその期間が 1 年間延長（平成 20 年 6 月 11 日まで）された。



